

日本あちこち河川遡行記(第247回)

京都 1-2-2-2.鞍馬川 後半 平成30年6月22日(金)晴

[続き]

やがて鞍馬の家々が現れ出し、気を付けて良く見ると道端に切られた杉の樹の株から新しい幹が数本伸びている木が石碑の周りに並んでいる。植物の生命力は凄いなー。

道の両側に民家が並び鞍馬の本通りに入る。川の東側の谷間の狭い敷地に向かう橋は方杖付きの桁橋で、床と杖は木材を使っている。木は圧縮力には結構強いので柱にも良く使用されるのだ。



09.切った杉株から若杉が生まれる



10.桁は鉄だが方杖と床は木を組み合わせた橋

写真等で知られた古い商家の家々が道の両側に並んでいる。鞍馬名物の山椒を使った食べ物を売る店が並んでいる。昨夜の「秘密の県民ショー」で京都人の山椒好きが取り上げられていたのは偶然であるが、ここ鞍馬は山椒が昔から有名であった。今はスーパーやデパートでも売っているのでお土産としての有難味が減ってしまった。



11.伝統的建物が連なる鞍馬

別の橋も方杖付きの橋だが、方杖と鋼桁下に補強した木材が上手く組み合わせ

されている。先ほどの橋よりも長いスパンなので上手く補強している。

東海自然歩道の絵地図がここにも出現しているが、見る方向に合わせて下流側を見た地図で、北を下にしているので頭の中で方向を変換しながら見ることにする。



12.ここのは方杖と桁補強の木材の使い 13.北を下にした絵地図は見づらいヨ一
方がゲー

やがて道の北側に広い石段が現れ、その奥に鞍馬寺の山門が聳えている。温泉に立ち寄った時も山の中腹に有る鞍馬寺には行かず今回もパスする。山門の奥からは100mほど登る寺が運営しているケーブルカーが有る。今もお坊さんが運転しているとのことで、合掌して運転しているのだろう。



14.鞍馬寺の山門前を通過

幾分広くなった道と土産物屋を見ながら進み叡電「鞍馬駅」に到着。駅前広場には鞍馬の名物？の大きな天狗の面が長い鼻を出して睨んでいる。天狗と言えば子供の時のチャンバラごっここの時に叫んだ「鞍馬天狗参上」を思い出す。アラカン（嵐勘十郎）のヒット映画で大阪駅東口のガード下の新東宝映画の映画館を思い出す。

駅舎は純和風の造りで駅らしくない。ホームに看板娘の「きらら」号がやっ

て来たのでカシャ。パノラミックウインドウが屋根まで広がった展望電車で、それまでの地味な叡電のイメージを一新した。「この電車、エエで一ん」。



15.鞍馬駅前広場の巨大な天狗面



16.叡電鞍馬駅はこれが駅？
ぞ



17.展望電車「きらら」がホームに居る

風鈴を売っていたのでお買い上げで駅から府道に戻る。直ぐの郵便局の建物が素晴らしいぞー。鞍馬の町家のイメージを上手く取り入れたゲーな局舎である。局のベスト3に入れておく。

直ぐの西側には鞍馬寺の参道に有る「由岐神社」の御旅所が道沿いに有る。御神輿の休憩所であるが立派な広い御旅所である。



18.鞍馬郵便局は街並みに合わせてに



19.「由岐神社」の御旅所が府道沿いに

叡電は狭い溪谷に分け入る鉄道で一種の登山鉄道で最大勾配は 50%も有る。御旅所の直ぐ南の線路際に 50%の勾配標が有ったので近寄ってカシャ。兵庫の川廻行時に神戸電鉄の 50%の写真も撮ったはずである。日本一の箱根登山鉄道は 80%もある。



20.叡電の最急勾配 50%が駅手前に



21.叡電は登山鉄道なのだ

下り道を南西に進むと右側から四次支流の「貴船川」が合流し、一段高い所に叡電「貴船口」駅が在る。貴船と言えばこれからがかけいれどきの「川床」が有名な所で、貴船神社も有名である。Y字型の道路の根元部には大きな鳥居が立っている。京都の街中から貴船に直通するバスは無く、貴船口から貴船までの短距離の京都バスが叡電到着に合わせて走っている。



22.貴船神社の鳥居が川と道の合流点に

二ノ瀬地区にやって来て府道から対岸の市道を歩くと民家の斜面に大きな淡い青紫色の本紫陽花と額紫陽花が並んで咲いている。甲乙つけがたい美女が並んではる。



23.本紫陽花と額紫陽花が並んで競っている

市原地区に来ると溪谷が広い河岸段丘となり市街地が広がる。東からはこれも四次支流の「静原川」が合流し、北からの流れが西に方向を変える。叡電は鞍馬川と袂を分かちそのまま南に向かっている。

コンビニで暫し休憩し直ぐに川の北側の市道を西に向かい住宅地の中を歩く。宅地を過ぎると道は狭まり暗い林の中を進む。公園らしい園内を進み歩道橋を渡り左岸側を西に向かう。やがて北側の山の中を進んで来た府道に合流すると前回多くの擦れ違ったゴミ収集車の搬入先である巨大な清掃工場が山の中腹に有る。洛中に設置できない工場が洛北に有る。



24.山の中腹に巨大な清掃工場が

府道に入ると直ぐに鴨川との合流点の上に架かる「十三石橋」に着く。橋の上から合流点の写真を再度撮り「ゆうゆう号」乗り場の「山幸橋」バス停に向かう。予定ではもう一つ先の「高橋」バス停まで歩くつもりであったがあと7分しかないので山幸橋から乗ることにした。高橋からなら300円だが一つ違いの兄さんからなら500円となるが・・・。定刻にコミバスがやって来て乗車。今日は先客1名でコミバスらしい姿である。



25.先日の鴨川逆遊行で見た橋に到着



26.今日の方が水量が多いなー

北大路、京都、姫路、相生、岡山と地下鉄、新快速、普通電車と乗り継ぎ4時間半の長い帰路につく。

本日の歩行距離：9.7km。調査した橋の数：29。

総歩行距離：9,985.1km。総調査橋数：12,140。

使用した1/25,000地形図：「大原」（京都及大阪2号-3）、「周山」（京都及大阪6号-1）